

6月23日(土)15:00から、大津市琵琶湖湖畔ホテル<湯元館>で
関西慶應寮和会 設立総会及び設立記念式典が、出席者32名
(別添)のもと盛大に開催されました。

I: 関西慶應寮和会・設立総会 (卒年・敬称略)

- ①開会の辞 世話人 青嶋義晴
- ②世話人代表挨拶 世話人 由良豊一 (写真1)
- ③設立趣旨説明 世話人 由良豊一
- ④会則について 世話人 松本文一郎

関西慶應寮和会会則について説明し、審議したところ、全員
異議無く承認されました。

⑤役員選出

司会者より役員の人選について諮ったところ、事務局一任との
声が上がりました。そこで、世話人会事務局長 松本文一郎が
役員候補者を提示したところ、全員異議なく承認されました。

<役員>

- 会長: 由良豊一 ○会長補佐: 増田登
- 会計: 阪本光宏 ○会計監査: 相本琢郎 (写真2)

引き続き、増田会長補佐より9名の会長委嘱の発表がありました。

<幹事>

- 渉外担当: 酒井克己 ○企画担当: 飛鳥久範
- 本部窓口担当: 松本文一郎 ○事業担当: 青嶋義晴
- 事業担当補佐・特命担当 西村元秀
- 特命担当: 小林博隆
- 寮生窓口・本部窓口担当補佐: 浄住徹朗
- 特命担当: 宮崎博 ○広報担当: 松永修

また事務局長は、幹事間の互選により、松本文一郎が選任
されました。

⑥事業計画策定について

世話人 松本文一郎 から平成24年~25年度 事業計画
(案)の提示があり、審議したところ、全員異議なく承認されました。



写真1. 由良世話人からご挨拶



写真2. 役員選出ご挨拶

<②③由良世話人代表からのご挨拶>・・・抜粋

今まで、たまたま所用もあり関西からは寮和会に参加し難かったが、昨年ゼミの先輩でもあられる清浦OBから、関西に寮和会(支部)を設立するよう強い要請を受けた。

改めて、寮生活の熱い思いや人生の長い歩みの中で考えてみると、慶應義塾の問題、とりわけ寮の存続問題がクローズアップされていることに想いが至った。そのために、寮を巣立った者、塾のOBとして、寮をバックアップして、慶應義塾の活動に関わって行きたいと考えるようになった。

そこで、関西在住のメンバーに相談したところ、13人の世話人の協力を得る事が出来、その中で<趣意書>を練り上げ本日の設立総会に至った。(趣意書は、右の通り)

II : 関西慶應寮和会・設立記念式典

(卒年・敬称略)

引き続き、青嶋幹事の司会により、設立記念式典に移りました。

- ①会長挨拶 関西寮和会会長 由良豊一
- ②来賓挨拶 寮和会会長 小西正文
元舎監 尾崎康
- ③南寮竣工報告 寮和会副会長 清浦奎明
- ④日吉寄宿舍開設75周年 DVD上映
- ⑤記念写真 (写真3)

趣意書

寮生活では同学年及び上下3ヶ年の方々との付き合いであったが、寮のOBの集まりとなると、年代の分布というものが遥かに大きく、その広範囲な世代間の種々なる話が聞かれること。また、企業単位の集団ではなく、経済戦争中の自身を優位に進めようというプレゼンテーションでもない、利害を超越した存在であり、ひとの話も冷静に聞き、より正確な情報として受け止めることができ、且つ、自身の意見も率直に述べることができ、良い理解者を作り思想の醸成ができる。

福澤諭吉先生は敢えて自身が政治家になることを快しとせず、教育者、思想家として多くの著名な建国の志士を誕生させ、日本の近代化に貢献されたのである。

平成維新というものがあるとすれば、否、持続できる力強い、新しい世を作っていくことが我々同じ学び舎を巣立ち福澤精神なるものを持つ同志が、また寮生活の経験者として、その感じるところを語り合い、国を憂うのではなく、渦中にある自身が何をして、後輩たちに繋げて行くかという、まさに人間愛を深め、その中から塾や社会に向かって良識を発信する母体にもなればと思う。相手を論敵と考えるのではなく、相手の見識を認め合い尊厳性の高い議論を醸し出せればと考えるのである。

そのような形で我々の持つ精神を世に伝え、賛同者を増やしてゆきたい。

その、第一歩というのが、この地域の寮和会の設立ではないかと思う。年に1回、中央(日吉)での会合は、いろいろな理由で参加するのが困難な方々も多く、各地方にいないかと推察する。地域の寮和会を、年2~3回程度行うことで、そのような方々の参加へのチャンスも増えることになるであろう。

内容は、そこに何を求め何を求めるかということも大切であるが、当初は、呑むための時間に費やされることも視野にいれ、しかし、上記の語らいの時間に重点を置き、いずれは行動に向かうような運営を目指してゆけばいかかと思うのである。

補足して記すと、まず、寮和会本体(本部と言わせていただく)の方針、計画と整合性を取りつつ、現寮生への支援や慶應義塾への貢献、会員間の親睦、組織として確立し、現寮和会(本部)を軸として日本全国をブロック化し、現寮生と寮OBの、いわゆる時空間を超えた絆づくりを行い、将来の塾員、寮生の発掘、そして趣意書の軸となる、硬く言えば学習会の実施、いわゆる、懐古主義では無く、相互に経験を発表することや、福澤精神をより理解するため著書の読書会などを通して、理念の共有を図りたい。何といても大阪は福澤諭吉先生の生地であり、学んだ緒方洪庵の適塾の地でもある。寮生活から学び採ることの大きさを実感し未来志向で語り合い後世に継承して行きたく慮るのである。

Ⅲ：関西慶應寮和会・記念祝賀会開催

西村幹事の司会により、18:30開宴しました。（写真4）

その中で、山本OBの乾杯発声に続き、多くのOB各位から有り難い挨拶を頂きましたが、永年苦勞して、昨年司法試験に晴れて合格された脇田OBの挨拶には、ひととき大きな拍手が起こりました。

宴の中で、寄宿舎生活の思い出、近況の報告を始めとして、年代を超えて、関西慶應寮和会への想いを語り合いました。

全員で〈若き血〉と〈丘の上〉を熱唱し、（写真5）最後に、増田会長補佐から、関西慶應寮和会を〈一味違った親睦会〉にするために、趣意書の意を凝縮した次の5項目を目指そうとの締め挨拶で、全行事が終了しました。

〈5つの基本理念〉

- ①時空間を超えて集まろう。
- ②懐古主義だけでない親睦会を目指そう。
- ③未来志向で実現性のある夢・希望を語ろう。
- ④大きな座標軸を持ち慶應義塾のために活動しよう。
- ⑤時流に乗り先ずは関西（大阪・堂島浜）から始めよう。

それでも飲み足りないメンバーは、幹事部屋に集合し二次会開催。さすがに寮生活で鍛えた飲みっぷりで、夜の更けるのも忘れ語り合いました。

設立記念総会も大変意義深いものでしたが、諸先輩や後輩と胸襟を開き話が出来た祝賀会や二次会もまた、記者にとって生涯忘れることのないであろう貴重な時間となりました。



写真3. 全員で記念写真



写真4. 三色旗のもと宴会スタート

【会員の方々へ】

出席者の方におかれましては、お忙しい中、関西慶應寮和会設立総会に出席頂き有難うございました。

また今回出席出来なかった方々からも、地方の名酒や御寸志を数多く頂きました。祝賀会の席上、世話人会からもご披露させて頂きましたが、紙上でも謝辞を述べさせていただきます。

本当に有難うございました。

また、本設立総会を企画実行された世話人会の皆様もご苦労様でした。

IV: オプションツアー

明るる24日(日)は、有志8名で、尾崎元舎監の名ガイドのもと琵琶湖湖畔ツアーに出かけました。

<ルート>

①三井寺参詣(弁慶が比叡山で引きずったという大鐘等見どころ満載)
(写真6)

②比叡山山頂の延暦寺参詣<根本中堂>

③坂本の名物そば<鶴喜そば>で昼食 ..さすが名物!おいしかった。

④佐川美術館で<平山郁夫展>鑑賞

昔、港町として栄えた大津。厳しい修行の場である延暦寺の宿坊としての坂本。都の舞台裏としての歴史の重みを感じた一日でした。夕刻京都駅で名残惜しく解散しました。

V: 記者雑感

世話人会が初会合をもったのが、昨年11月11日。それから僅か7カ月の準備期間を経て、関西慶應寮和会 設立総会及び設立記念式典を成功裏のうちに終えることが出来、正直安堵しました。

しかしようやく船出が出来たばかりです。増田会長補佐が締めめの挨拶で言われた<5つの基本理念>を念頭に、会を盛り上げていきたいと思えます。

これからが大事です。世界を目指して楽しく大海原に繰り出しましょう。
以上

<第4号の訂正:宮崎博様の卒年ですが、H18年と掲載しましたが正しくはH16年の誤りでした。お詫びさせていただきますと共にここに訂正します>



写真5. 若き血を全員で熱唱



写真6. 三井寺にて(オプションツアー)